



呉トピックス

未収益期間短縮へ 柑橘大苗植え付け

呉市倉橋町の石地温州研究会は3月中旬、JA倉橋アグリセンターで柑橘の苗木を2年生苗木育成用に仕立てました。改植や新植時に2年生の大苗を植栽して未収益期間の短縮と生産者の早期所得獲得が目的。産地の推進する品目であるいしじ、レモン、はるみ約360本を植え付けました。

JA広島果実連株式会社駐在技師から指導を受け、部会員とJAアグリセンター職員ら約15人が作業。専用の育苗袋に軽量培土を入れ、丁寧に細根をほぐして苗木が中心に位置するように覆土、接木部分が埋まらないように注意して仕立てました。

同部会の落海政博部会長は「20年以上つづく産地にとってなくてはならない重要な取り組み。充実した苗を提供し、産地維持と所得向上につなげたい」と話しました。



▲丁寧に苗を仕立てる部会員の皆さん

越冬紅八朔 出荷はじまる



JAくれ選果場で3月中旬、呉市下蒲刈町と蒲刈町の出荷組合員約20戸が取り組む「越冬紅八朔」の選果がはじまり、初日は約4tを出荷しました。一般的に紅八朔は12月下旬〜1月上旬に収穫し、生産者が貯蔵した後に選果場へ出荷するが、「越冬紅八朔」は厳寒期を超えた3月中旬まで樹上にならせ収穫、出荷します。

令和6年度産は年明け以降の寒波の影響が心配されたが被害は無く、内容・外観肥大とも順調で良品質に仕上がりました。同JAくれ柑橘事務所の今田隆司所



▲入念に選果する作業員

長は「紅八朔は収穫の時期によって食味が大きく変わる柑橘。3月に収穫した紅八朔を多くの消費者に味わっていただきたい」とPRしました。

呉アグリセンター 新築オープン



4月1日、JAは呉アグリセンターを新築オープンしました。新店舗は旧広北店の裏側に位置し、呉地区の営農指導拠点、生産資材店舗として始動いたします。この日、開所式を開き、藤田正廣理事のほか地区総代、女性部部長、関係者が出席し完成を祝いました。また、1〜3日までオープン記念として100名限定に記念品をプレゼント。地元農産物やお米の特売、キッチンカーなどイベントを開催し、来場者でにぎわいました。これからも、JAは地域、組合員に密着した活動を続けてまいりますので、よろしく願っています。



▲テープカットする藤田理事(左から2人目)と来賓の皆さん

管内2会場で開催 地区別組合員集会



3月中旬、JA呉地域の農協会館と江田島アグリセンターで地区別組合員集会を開きました。組合員の意志を反映するためJAひろしま発足後、初めて開催しました。集会はJAが事業概要や情勢、取り組み状況などを説明し、参加した組合員からJA運営や経営など要望について、質問や意見を受けました。



▲各地区から組合員が参加し、意見交換が行なわれました(呉地区)



なるほど え〜のう! 営農情報

落葉果樹

■うちじい

●芽かき

新芽が伸長してくると繁茂状態となり、品質が低下するので、受光量確保と結果枝（実のついている枝）の勢いを揃えて品質向上をはかる目的に、結果枝の本数を整理します。



樹勢の弱い樹ほど、早めに実施し、樹勢の強い樹では、遅めに2〜3回に分けて実施します。

●残す芽の数

1㎡あたり適度な間隔で5〜6本配置します。

なお、背面枝（枝の背から発生している芽）や、下垂枝、重なり枝、徒長枝（真上に向け伸びた勢いの強い枝）は積極的に芽かきを行なってください。

ただし周囲の枝が少なく、太枝などが日焼けを起こす可能性がある場合は、誘引や捻枝（枝をねじる）を行ない、芽数を確保しましょう。

●かん水

発芽期は7日おきに15〜20mmを目安にしっかりと行ないましょう。

●カミキリムシ対策

5月の下旬頃はカミキリムシの発生が考えられます。対策として「ガットサイドS」の原液又は1・5倍に薄めて主幹部に塗布してください。



■カキ

●摘蕾

大きな果実を生産するには細胞分裂時期に貯蔵養分を蕾に蓄え、果実内の細胞数を多くすることが大切なことから、摘蕾は重要な作業となります。

摘蕾は開花の5〜15日前が適期となります。

●残す蕾

- ① 結果枝（実がなる枝）の中央付近
- ② ヘタが大きく四方の形がそろっているもの
- ③ 横向き・下向き
- ④ 肥大したときに周囲の枝に接触しないなどの部位です。

カキは一斉に開花せず順次開花するため、一度摘蕾を終えた樹でも遅れて開花した花や、見落としがないか再度確認しましょう。

■モモ

●摘果

満開40日後（5月上旬〜中旬）頃から開始します。

可能な限り満開50日後頃（硬核期）までには終了するように行ないましょう。



摘果は生理落果の起りにくい品種から優先して行ないます。硬核期に強い摘果を行なうと生理落果や果実肥大による核割れ（低糖な果実）を助長するため注意しましょう。

■スモモ

●摘果

満開後50〜60日（5月中旬〜下旬）頃から仕上げ摘果を行ないます。



早生種や樹勢の弱い樹は早めに行ない、サンタローザなど生理落果の多い品種は着果が確認できてから行ないましょう。

葉果比は1果あたり20枚ほどが目安です。

MEMO

落葉果樹は、開花期を迎えるものや、果実肥大が始まるなど様々な品目があります。

この時期は前年に貯蔵した養分による成長から、今春に発生した葉で光合成した養分による成長へ転換していきます。

短期間で、一気に変化していきますので、遅れないよう生育に合わせた作業を行ないましょう。



家庭菜園

5月は気温も上がり、野菜の生育に適した時期です。夏野菜の植え付けが本格化し、春に種まきした野菜も成長をみせます。5月に野菜を栽培する際は、気温の上昇と乾燥、雑草、害虫、水やりなどに注意し、苗の植え付けをしましょう。

これからの季節、栽培に適した代表的な夏野菜トマト・キュウリの土づくりから施肥等栽培管理についてポイントをご紹介します。

■トマト

●土づくり・基肥

堆肥は定植の1か月前、石灰や肥料は2〜3週間前、基肥は1週間前を目安に施し早めに畑の準備をしておきましょう。基肥が多いと（窒素過剰）、着果や果形が悪くなったり、尻腐り（石灰欠乏症）になりやすいので注意しましょう。

●定植

定植時期の目安は晩霜の心配がなく、最低気温10℃以上がよいでしょう。一番花が咲き始めた頃（5月上旬〜5月中旬）、8℃以下の低温は生育不良や生理障害の原因となるので、過度な早植えは避けましょう。

●整枝

適切な栄養で成長をしていれば、わ

き芽は小さい内にすべて摘み取りましょう。放っておくと葉や茎ばかりできてしまいます。余分な栄養分を奪う、わき芽を取ることで実が大きくなり、風通しもよくなって病気の予防につながります。

根かき作業は、晴天の日に行ないましょう。傷口を早く乾燥させ、病原菌の侵入を防ぐ効果があります。

●かん水・追肥

定植して2〜3段開花までは、吸水力が一番強い時期です。かん水は控えめに、根を深くはらせるようにしましょう。追肥は3段目の花が咲く頃を目安にしましょう。株元から約30cm離れたところに深さ15cm程度の穴をあけ追肥を投入しましょう。

●摘果

果実が500円玉からゴルフボール程の大きさの時に摘果を行ないましょう。1〜2段目は1果房に3果、3段目以降は4果になるよう摘果しましょう。

●連作障害

同じナス科のナス、ジャガイモ、ピーマンを作った場所は、3〜4年程度休ませるようにしましょう。

■キュウリ

●定植

ウリ科の植物は若苗の定植が良いとされます。本葉が3枚で定植すると活着がスムーズになり、初期の生育が安定します。株間は60〜80cmを

目安にしましょう。

寒いときは、ホットキャップやトンネルで保温しましょう。また、あらかじめ土壌に黒マルチを施して十分に地温を確保しておくことで定植後の根の張りがよくなります。

●整枝

基本的には主枝を1本のばし、下から5〜7節までわき芽や雌花をすべて除去しましょう。生育初期は葉だけ残しましょう。

整枝は、下枝3〜4本（7〜10節）までは子づる1節で摘芯しましょう。その後（11節以降）は子づる2節摘芯を基本とします。

●かん水・追肥

キュウリは急速に実が肥大するので、実がなり始めると肥料や水が多く必要になります。追肥は、1番果の収穫から始め、7〜10日間隔で施しましょう。かん水は安定した栽培をめざすために、こまめに行ないましょう。定植直後は、活着を促すためにしっかりと水を与えますが、その後は根を張らすためにやや控えめにしましょう。

●連作障害

ウリ科の植物であるゴーヤ、スイカ、カボチャなどを作った場所は、2〜3年程度休ませるようにしましょう。

■土づくりのポイント

●土の選び方と準備

市販されている土には、さまざま

な野菜に対応する汎用性の高いものや、特定の野菜用にブレンドされた専用土など、幅広い選択肢があります。以下の条件を満たす土を選ぶと良いでしょう。

◎排水性と保水性のバランス

根腐れを避けるためには、水はけが良く空気を含む土が望ましいとされています。

◎土壌の酸度

多くの野菜はpH6〜7の中性土壌を好む傾向があります。

◎用土の改良方法

もし、手持ちの土が野菜の育成に適していない場合は、改良する方法があります。土壌を改良するには、有機物を混ぜることで土の質を向上させることができます。

◎腐葉土や堆肥を混ぜると保水性が向上し、同時に微生物の活動を促進させることができます。

◎粘土質の重い土には、川砂や軽石、またはパーライトを混ぜると排水性が向上します。

野菜によって求める土の条件は異なります。例えば、トマトのような夏野菜は水はけの良いやや酸性の土を好みますが、レタスやほうれん草などの葉物野菜は保水性に優れたややアルカリ性の土が適しています。このように野菜に適した土の環境を理解することで、野菜が生育しやすい条件を整えることができます。

ときめき ♡ 女性部通信

いざというときに 防火・消火研修会

J Aひろしま女性部呉地区本部大古支部は、J A大古支店で3月下旬、江田島市消防本部と協力し防火訓練を行ない、部員30人が参加しました。

同市消防本部の出前講座を活用し「防火・消火の研修会」と題して同署員の庫本修平さんを講師に招き開催。

研修会は家庭内での火種チェックと対策、住宅用火災報知器の作動や山火事のメカニズムなど家庭・地域ぐるみの火災予防を学び、屋外で部員が訓練用消火器を使って実際に放水し、消火器の使用方法を実践しました。

庫本さんは迅速な対応のため、119番通報は個人の住所ではなく、近くの店などわかりやすい場所を伝えほしいと呼び掛け「万が一、自宅が火事になった場合、自分の命を最優先に考え、落ち着いて行動してほしい」と話しました。

同支部の澤岡邦恵副支部長は「使ったことのない消火器で実践できて勉強になった。防災・消火の知識を今後に活かし、地域で役立てたい」と話しました。



▲消火器で放水を体験する部員

盛大に開催 ふれあい感謝祭

J Aひろしま女性部呉地区本部は、各支店ふれあい委員会、支店等と協力してふれあい感謝祭を開催しています。

2月中旬には鹿川支店で、3月下旬には広北店で開催しました。地域住民や組合員に楽しんでもらおうと趣向を凝らし、地元農産物の販売はもちろん、女性部員手作りのたこ焼きやぜんざい、豚汁、炊き込みご飯の販売や支店職員も焼きそばやフランクフルトを販売するなど、祭りを盛り上げました。

▶丹念に焼き上げた定番のたこ焼き(鹿川支部)



▲来場者に振舞った大人気の豚汁(広支部広北グループ)

定年退職 おめでとうございます

3月31日、東広島商工会議所に於いて令和6年度定年退職辞令交付式が執り行われました。呉地域で定年退職された方々は以下のとおりです(敬称略)。

呉地域統括	統括長	藤原 俊尚
呉地域営農経済センター	センター長	濱崎 拓三
音戸支店	支店長	寺本 義寿
蒲刈アグリセンター	センター長	今村 龍生
葬祭センター	センター長	今宮 辰栄
総務管理課	係長	阿津地 裕子

